

地域課題を解決し続ける地域が 取り組んでいることは ～「ローカルSDGs事業」について～

令和7年1月24日(金) 13:30～

徳之島世界自然遺産推進協議会

天城町企画財政課 吉野琢哉



本日のお話

1. 徳之島と徳之島世界自然遺産推進協議会について
2. 徳之島における地域循環共生圏の取組
3. エコツアーガイド育成・コンテンツ形成支援体制の
仕組み作り
4. 地域課題を解決するために

自己紹介

吉野 琢哉

- ・鹿児島県徳之島・天城町出身。高校まで島で過ごす
- ・大学進学を機に上京。大学卒業後、2年間の民間企業勤務を経てUターン
- ・平成26年4月 環境省徳之島自然保護官事務所 自然保護官補佐
- ・平成29年4月 天城町役場入庁 企画課配属 世界自然遺産担当
- ・令和2年4月 環境省沖縄奄美自然環境事務所へ出向(2年間)
- ・令和4年4月 天城町役場 企画財政課配属 世界自然遺産担当
- ・現在 企画財政課にて脱炭素や地方創生等を担当

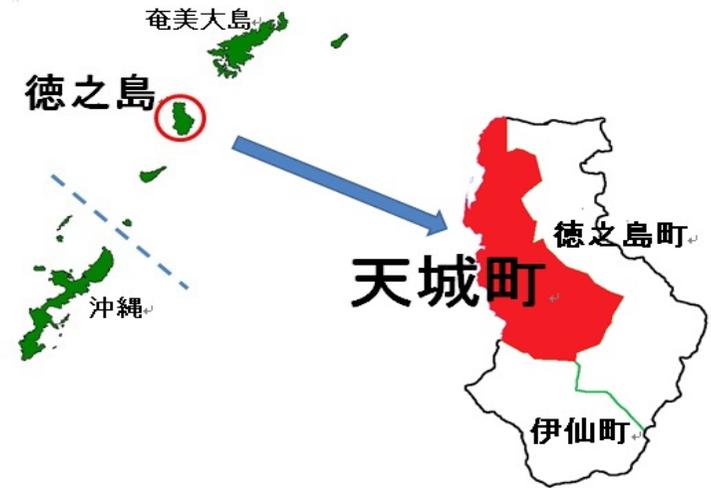


本日のお話

1. 徳之島と徳之島世界自然遺産推進協議会について
2. 徳之島における地域循環共生圏の取組
3. エコツアーガイド育成・コンテンツ形成支援体制の
仕組み作り
4. 地域課題を解決するために

徳之島の概要

- ・鹿児島市より南西に約480km
- ・周囲約89km、面積約248km²
- ・人口約2万2千人
- ・徳之島町、天城町、伊仙町の3つの自治体
- ・主要産業 農業(サトウキビ・バレイショetc.)
- ・闘牛と長寿子宝の島
- ・年間入込客 約12万人
- ・大都市圏との航空直行便はなし



世界自然遺産 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

令和3年7月26日 世界遺産登録決定！！



オンライン開催された第44回世界遺産委員会(中国・福州市)を見守る徳之島関係者



世界遺産委員会登録試聴会(天城町防災センター)



世界遺産登録記念式典で各町へ贈呈された登録証のレプリカ



世界遺産登録記念式典(令和3年11月15日 徳之島町文化会館)

世界自然遺産とは～奄美・沖縄の自然の特徴～

奄美・沖縄の世界遺産としての価値＝島ごとの異なる多様な生物種(生物多様性)



世界自然遺産とは～奄美・沖縄の自然の特徴～

奄美・沖縄の世界遺産としての価値＝島ごとの異なる多様な生物種(生物多様性)



徳之島世界自然遺産推進協議会

【概要】

- ・令和5年5月に発足
- ・徳之島三町や商工会、観光連盟、エコツアーガイド連絡協議会等官民の関係機関で構成
- ・徳之島における世界自然遺産に係る事項に総合的に取り組むため、徳之島3町および関係機関が連携・協働して、徳之島における世界自然遺産の適正な管理及び自然資源の保全と利活用を推進し、もって持続的な地域の振興を図ることを目的
- ・負担金(徳之島三町)、補助金、寄附金等で運営

【主な事業】

- ・徳之島エコツーリズム推進事業
 - **エコツアーガイド人材育成研修**
 - 自然遺産のPR活動
- ・アマミノクロウサギ防護ネット設置



本日のお話

1. 徳之島と徳之島世界自然遺産推進協議会について
2. 徳之島における地域循環共生圏の取組
3. エコツアーガイド育成・コンテンツ形成支援体制の
仕組み作り
4. 地域課題を解決するために

徳之島における地域循環共生圏の取組

令和元年度当時・・・

- ・世界自然遺産登録に向けて取組が進められているが地域住民の理解や認知が不十分
→反対というよりは無関心
- ・世界自然遺産に関わるメンバーの固定化
→自然保護だけでなく幅広い分野での議論が必要
- ・奄美大島や沖縄に比べて、知名度や自然のスケールで劣る
→徳之島の魅力発信が必要

⇒ 世界自然遺産を契機とした地域の産業や地域経済へのメリットを生み出すための取組。持続可能な島づくりを目指すため地域循環共生圏に着目。

徳之島における地域循環共生圏の取組

● 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 環境整備(R1, R2)、事業化支援(R3, R4)

※R1～R3の主な取組

1. 世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業

事業の あらすじ・ ストーリー	<p>地域の様々な団体が集い、観光事業者と漁業・農業といった多様な関係者が連携し、地域に残る縦割りを打破し、観光受け入れ体制の構築を図る。</p> <p>テーマに「自然と文化に向き合い、人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅の提供」を掲げ、地域に色濃く残る自然や文化などのツールを活かし、富裕層・長期滞在者をターゲットに体験型ツアーの造成地域の様々な団体が集い、観光事業者と漁業・農業といった多様な関係者が連携し、地域に残る縦割りを打破し、観光受け入れ体制の構築を図る。</p>
主な取組	<ul style="list-style-type: none">○新規観光体験を10コンテンツ創出 (E-Bikeを使ったガイドと巡る名所、島内産コーヒーの植付・焙煎・試飲、 枯損木を使ったウッドワーククラフト、ナイトハイク、集落歩き&ふり茶体験 他)○上記コンテンツを紹介する映像制作

2. 世界自然遺産“徳之島”ブランド創造事業

事業の あらすじ・ ストーリー	<p>アマミノクロウサギが訪れる農園で育った作物ブランド化事業では、世界中でもこの地域にしか生息していないアマミノクロウサギとの共生を目指す農園で採れる作物について、環境配慮した農作物として紹介することで、一般的に販売されている作物との差別化を図る。</p> <p>日本国内には世界自然遺産地域が5ヶ所あるが、主幹産業を農業とし、多種多様な作物を生産する地域は徳之島のみ。世界自然遺産を目的として訪れた方に、島の農家・農作物とのふれあう機会を創出することで、農家の所得を向上し、世界自然遺産登録による経済効果を農業分野等にも展開する。</p>
主な取組	<ul style="list-style-type: none">○クロウサギとタンカン農家の「共生プロジェクト」ストーリーブック作成○ふるさと納税サイトにおける共生を目指した農作物の販売

⇒ 持続可能な島を目指して、人材育成が重要。エコツアーガイドの育成スキーム構築へ(R4)

本日のお話

1. 徳之島と徳之島世界自然遺産推進協議会について
2. 徳之島における地域循環共生圏の取組
3. エコツアーガイド育成・コンテンツ形成支援体制の
仕組み作り
4. 地域課題を解決するために

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■推進体制

徳之島世界自然遺産保全・活用検討協議会※徳之島世界自然遺産推進協議会の前身組織
→徳之島三町(徳之島町、天城町、伊仙町)が協働

■取組概要

- ・“徳之島ファン”づくりにつながるような体験コンテンツを提供できるエコツアーガイドの育成
- ・自然環境に配慮したエコツアーを、経済的にも持続可能な形で実施できるように、様々な研修や支援体制の仕組み作りを行う
- ・徳之島の貴重な自然環境・文化を発信して関係人口を増やしていくと同時に、地域経済の活性化を目指す



エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■どうしてガイド育成をやることに？

① 課題感

- ・ガイドの高齢化(平均年齢60歳前後)
- ・自立、実装できているガイドの不足、ビジネスとして成り立っていない
- ・既存の研修スキームの限界
- ・ガイド自らによる情報発信や集客に向けた取組の不足
- ・自然保護を持続可能にするためには人とお金が必要 etc.

② 期待感

- ・エコツーリズムに対する徳之島の新たな産業としての可能性
- ・島の子どもたちの新たな職業選択肢のひとつにしたい
- ・徳之島の魅力を伝え、新たな“徳之島ファン”を獲得を目指す



エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■ どんなことをやっていったのか？

- ① 地域が目指したい姿と課題のあぶり出し
- ② 地域関係者とのコミュニケーションとニーズの把握
- ③ 外部の視点を入れる
- ④ とにかくやってみる
- ⑤ ①～④の繰り返し



エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

①地域が目指したい姿と課題のあぶり出し

- ・3町担当で何度も議論(打合せだけで年間17回)
- ・目指したい姿を言語化、ポンチ絵(≒「地域ビジョン」「マンダラ」)に落とし込む作業を繰り返す(ポンチ絵はVer10まで)

【事業目標】

- ・自然、文化の保護と活用による地域経済への波及に繋がる地域循環共生圏の確立

【徳之島のエコツーリズムの目指す姿】

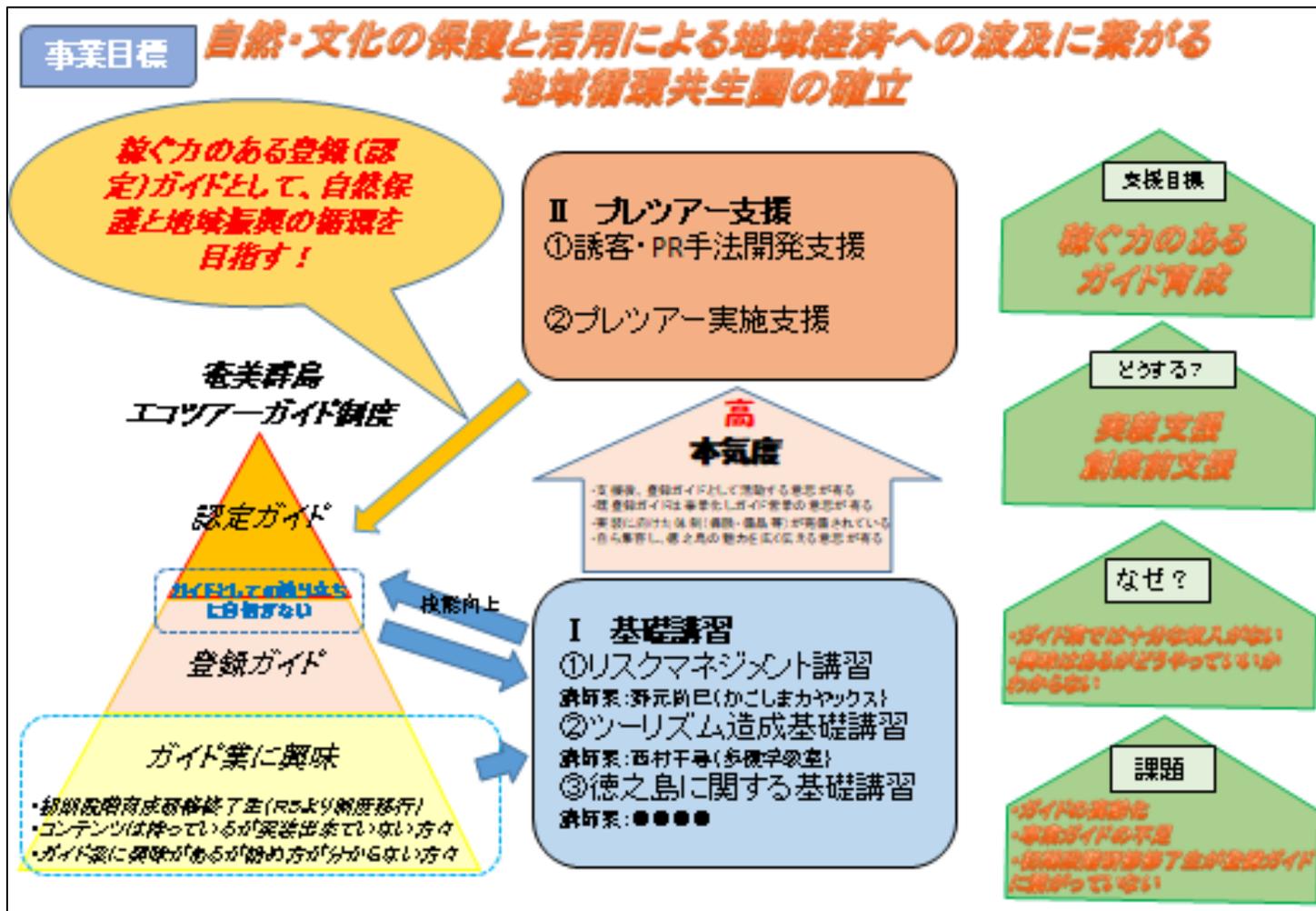
- ・徳之島の文化・自然環境を深く理解した“徳之島ファン”を生み出すコンテンツの拡大

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

②地域関係者とのコミュニケーションとニーズの把握

・ポンチ絵を活用した関係者への説明、コミュニケーションを通じてニーズを把握

※最初のポンチ絵



エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

②地域関係者とのコミュニケーションとニーズの把握

- ・ガイド業の経済的発展の必要性に理解はしているものの
“稼ぐ”というワードに抵抗感
⇒ポンチ絵の表現を変更(稼ぐ→自立したに)
- ・受入客が増加していくことによる、自然や地域への悪影響について懸念の声。
- ・経済的側面がフォーカスされることへの違和感
⇒育成講習のなかに、「エコツアーガイドの存在が地域に好影響を与えた事例」「エコツアーガイドの社会的責任」を学べる科目を入れることに。
- ・安全管理に関する研修を求める声
⇒育成講習のなかに「リスクマネジメント講習」を入れることに。
- ・“本気”で情報発信や集客活動を行っているガイドは僅少
- ・実践の場が必要
⇒3段階による育成スキームとし、中位講習では実践形式の講習を想定し、最上位講習では伴走支援型によるエコツアー商品販売支援を試行することに。



↑エコツアーガイドとの意見交換会の様子



↑エコツアーガイド連絡協議会会長を訪問し説明をした際の様子

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

③外部の視点を入れる

- ・大学の先生
⇒全国の優良事例等を踏まえた助言
- ・全国各地で活躍しているエコツアーガイド
⇒基礎講習の講師(エコツアーガイドの社会的責任)
⇒ガイドさんの相談相手
- ・旅行会社の職員
⇒コンテンツ化に向けた助言
- ・アウトドアビジネスアドバイザー
⇒集客・販売手法開発支援に係る専門家派遣支援の講師
(エコツアー商品販売支援)
⇒行政向けセミナーの実施
⇒ガイドさんの相談相手

徳之島のエコツアーの目指す姿

徳之島の文化・自然環境を深く理解した“徳之島ファン”を生み出すコンテンツの拡大

Ⅲ 発展講習

①誘客・PR手法開発支援に係る専門家派遣支援

本気度
高

- ・支援後、登録ガイドとして活動する意思が有る
- ・既登録ガイドは事業化しガイド営業の意思が有る
- ・実装に向けた体制(保険・備品等)が完備されている
- ・レスポンスフルツーリズムや環境負荷低減への配慮がある
- ・誘客したいターゲット層が明確であり、そのターゲットに対し積極的に誘客する意志がある

Ⅱ 実践講習

①ツアー実践講習

- ・実際にツアーを実践。認定ガイドにモニター参加いただき評価をフィードバック

希望者？

Ⅰ 基礎講習

①リスクマネジメント講習

- ・ツアー実施にあたっての危機管理について学び、安心・安全なコンテンツ提供を目指す

②エコツアーの社会的責任講習

- ・エコツアーガイドやコンテンツに求められる社会的責任や地域貢献の事例を学ぶ

③ツーリズム造成基礎講習

- ・認定ガイドのツアーに体験参加しコンテンツ作り、ツーリズム造成の基本を学ぶ

④徳之島に関する基礎講習(座学)

- ・徳之島の自然や文化についての基礎情報を学ぶ

⑤ガイドングスキル講習(WS)

- ・徳之島のことを自らの言葉で伝えるためのワークショップを実施しガイドングスキルの向上を目指す

支援目標

ツアーにより収益をあげ
地域社会・地域経済に貢献できる
ガイドの育成

どうする？

実装支援
創業前支援

なぜ？

- ・ガイド業では十分な収入がない
- ・興味はあるがどうやっていいかわからない

課題

- ・ガイドの高齢化
- ・自立、実装出来ているガイドの不足
- ・初期段階研修修了生が登録ガイドに繋がっていない

継続できるスキームの確立

奄美群島 エコツアーガイド制度

収益をあげられる
認定・登録ガイドの増

認定ガイド

ガイドとしての
独り立ち
に自信がない

登録ガイド

ガイド業に興味

- ・初期段階育成研修修了生(R5より制度移行予定)
- ・コンテンツは持っているが実装出来ていない方々
- ・ガイド業に興味があるが始め方が分からない方々

技能向上

参加

参加

参加

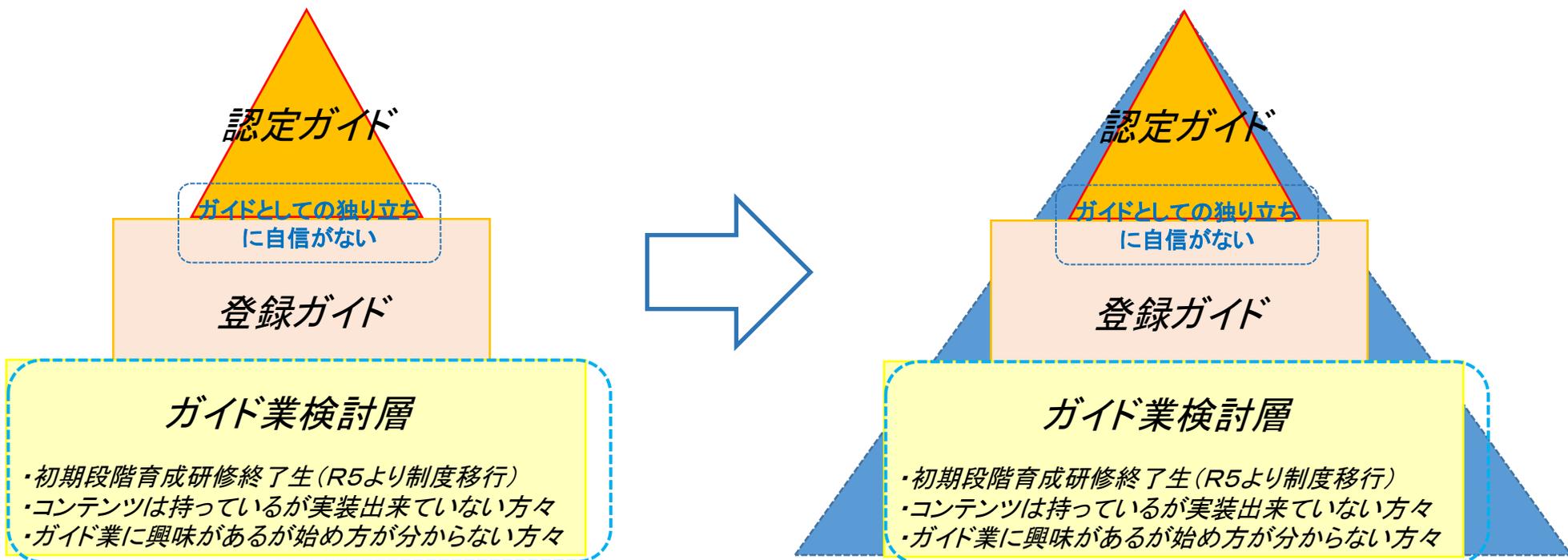
徳之島のエコツアーの目指す姿

徳之島の文化・自然環境を深く理解した“徳之島ファン”を生み出すコンテンツの拡大

徳之島ファンを創出するガイドを数多く生み出し安定的にガイド業が推進される仕組みを作る

ガイドに携わる人材の裾野拡大

ガイド実施不安層



基礎講習とプレツアーをガイド実施不安層に提供することで、ガイドとしての独り立ちを図り、徳之島ファンを作れるガイドを育成することで、ガイドに携わる人材の裾野の拡大と登録・認定ガイドの人数の増加を狙う

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

④とにかくやってみた



エコツアーガイド育成体制の仕組み作り



エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■議論、検討、説明、試行してきた講習を事業化

令和5年度～ 徳之島エコツアーガイド人材育成事業
※財源は寄附金を活用



徳之島エコツアーガイド人材育成研修
(Ⅰ基礎講習)受講生募集



徳之島の魅力を発信する
エコツアーガイドを目指しませんか？

エコツアーガイドに興味のある方、エコツアーガイドを目指したい方を対象に、エコツアーガイドに関する基礎的な知識や技術を習得するための研修を行います。2年間(Ⅰ基礎講習・Ⅱ実践講習)で計10回程度(座学・実践)の研修を計画しております。

※令和5年度は「Ⅰ基礎講習」のみ実施いたします。

募集締切 令和5年9月13日(水)

定員 30名程度

受講料 無料

対象要件 ・島内に在住かつ住所を有すること
・対面での参加が可能であること

申込方法 参加申込書をメールにてお申し込みください。

【お申込・お問合せ先】

徳之島世界自然遺産推進協議会(事務局)

伊仙町役場きゅらまち観光課 担当: 樺島

TEL: 0997-81-7055 E-mail: kyuramachi01@town.isen.kagoshima.jp

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■議論、検討、説明、試行してきた講習を事業化

令和6年度～Ⅱ実践講習もスタート
※今年度、20名がⅡ実践講習まで修了予定
※国の補助事業および寄附金を活用



徳之島エコツアーガイド人材育成研修 Ⅱ実践講習 研修内容・スケジュール(予定)

①ツアー実践講習 (第1回～第4回)

講師: 常加奈子さん

(旅友Tokunoshima・奄美群島認定エコツアーガイド)

第1回 情報収集

日時: 令和6年9月11日(水) 18:30～20:30

場所: 【伊仙町】ほーらい館 会議室A

第2回 プログラム造成

日時: 令和6年10月3日(木) 18:30～20:30

場所: 【天城町】防災センター 防災対策会議室

第3回 ツアー実践

日時: 令和6年10～11月中旬(受講者様にて調整)

場所: 調整中

第4回 振り返り

日時: 令和6年11月27日(水) 18:30～20:30

場所: 調整中

②魅力発信セミナー (第5回)

講師: 鈴木竜爾さん

(マリンサービス海夢居・奄美群島認定エコツアーガイド)

日時: 令和6年12月18日(水) 18:30～20:30

場所: 調整中

※日程・場所・研修内容等はやむを得ず変更になる場合がございます。

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■とあるガイドさんの声

- ・エコツアーガイドを名乗っているが、お客様を受け入れ、案内することに対し自然環境や地域への悪影響、(まだ起こってもいない)オーバーツーリズムに対して**漠然とした不安感**を抱いていた。
- ・誘客やPRといった新たなガイド育成支援の内容を聞いたときは、**私たち島のひとには難しい**と思った。
- ・専門家の伴走支援や様々な講師の方々からお話を聞くなかで、地域外の大きな資本が参入してきた場合には、**地域が意図しない方向で地域資源が消費される**可能性があり、実際にそのような地域があることを知ることができた。
- ・地元の人がもっと力をつけないといけないと感じた。ガイド業に向き合う**マインドが変わった**。

エコツアーガイド育成体制の仕組み作り

■事業化まで持っていけた要因(個人的に)

- ・議論の主体となるメンバーの関係性が事前に出ていた
- ・3町担当者がよく地域のことを理解していた
- ・3町担当者が上手く役割分担を明確化することが出来た
- ・常に目的や課題を認識しながら議論を進めることが出来、共通認識につながった
- ・専門家や島外方の視点も取り込むことにより、島のひとでは気づかない点に気づくことができた

■これからの課題

- ・財源の確保
- ・講師(特に先輩ガイド)の確保
- ・行政に頼らない支援体制の構築
- ・地域内でコーディネーターを担える人材の確保

本日のお話

1. 徳之島と徳之島世界自然遺産推進協議会について
2. 徳之島における地域循環共生圏の取組
3. エコツアーガイド育成・コンテンツ形成支援体制の
仕組み作り
4. 地域課題を解決するために



地域課題を解決するために

- 地域をよく知り、地域のことをよく話す
- 関係者が共通認識を持てるツール(今回はポンチ絵)をフル活用
- 地域内の声と地域外の声 双方を大切に

地域の数だけ正解がある！



ご清聴ありがとうございました